

二〇二四年度

適性検査Ⅰ

注意

- 1 問題は **1** のみで、4 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分間です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受験番号・氏名**を問題用紙と解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

聖徳学園中学校

受験番号				

氏名

1 次の「詩」と「文章」を読み、あとの問題に答えなさい。

(※印の付いている言葉には本文のあとに「注」があります。)

〔詩〕

悪あくしゆう 臭きゆうぶんぶん

ハエぶんぶん

また きょうも大騒さわぎだ

※ストで ゴミ運搬車うんぱんしゃが来ないといって

ゴミとは何だ

人間にとって 不用無用の物か

それが いてくれば困る

不快の物のことか

ならば 地球にとって

それが いてくれば困る

一ばんの不快の物は

もちろん そのゴミの生み手だろう

ところで あれは何だなん

地平線の おこうから

今かすかに ひびいてくる あれは

すでに 地球が手配をおえた

ゴミ運搬車のオルゴールではないのか

(まど・みちお「ゴミ運搬車」による)

〔注〕

※スト——ストライキの略。

〔文章〕

現代のわたしたちのくらしは、お湯を大量に使うくらしです。食器を洗うのもお湯。顔を洗うのもお湯。毎日お風呂をわかし、シャワーもたくさん使います。そうしたお湯は、捨てられると、地下の下水道管をとるため、冷めないまま下水道処理場へと運ばれていきます。

さらに、下水処理場では、汚れを分解する微生物の働きをよくするため、反応槽※はんのうそうに空気をたくさん吹きこみます。このとき空気が圧縮されて熱が発生し、集まった下水はさらに温度が上がることとなります。

（中略）

エネルギーをたくさん消費する都会のライフスタイルと、下水処理水がその流れの八割を占めるといふ多摩川の特殊さが、川の温暖化をまねいているのです。

川の温暖化は生態系にさまざまな影響※えいぎやうをあたえています。

わたしがいちばん懸念※けんねんしているのが、外来魚がくらしやすい環境かんきやうになってしまっていることです。

（中略）

下水処理場は水をきれいにし、魚を増やしてくれました。しかしそのいっぽうで川の温暖化をまねき、外来種の広がりを後押あとおししているのは、なんとも皮肉なことです。

多摩川復活の象徴しやうちやうがアユだとお話をしましたが、そのアユにも温暖化の影響があらわれています。

（中略）

多摩川のアユたちは東京湾とうきやうわんから※じやう上してくるわけですが、ここには荒川あらかわや江戸川えどがわなど、ほかの川も流れこんでいます。たくさん川がある中で、いったいどうしてアユたちは多摩川ばかりを選んでそ上するのでしょうか。

じつは、アユはそ上する時期にもっとも水がきれい、しかも水温の高い川を選ぶ習性があるのです。そして、その条件にびつたり当てはまるのが多摩川というわけです。

春、川の水温が一八度前後になるとアユはそ上をはじめますが、あたたかい下水処理水が大量に流れこむことで、最初にその条件にたっし、しかも水質のきれいな多摩川に、東京湾中のアユが引き寄せられています。

もちろん、アユの復活はよろこばしいことですが、その数がありに多すぎると、ほかの魚のエサまで食べつくし、生態系のバランスをくずす原因になりかねません。

また、水温の高さはアユの数だけではなく、その生育にも影響をあたえています。

アユは本来一〇月に卵をうみ、ふ化※ふかした稚魚※ちぎよが海に下って、

翌年の四月ごろにそ上をはじめます。しかし、多摩川のアユの場合は一二月ごろまで産卵さんらんが続き、しかも翌年の三月には早々はやばやとそ上をはじめてしまうのです。

これもやはり高い水温が原因です。

じつは、そ上だけでなく、秋の産卵も水温が一八度になるとはじまります。暑かった夏を過ぎ、空気がひんやりしてくる一〇月ごろにはそこまで水温が下がるはずが、いまは下水処理水の影響でちっとも温度が下がりません。そのため産卵時期おくが遅れ、ひどい年は翌年の一月まで産卵が続くこともあります。

そして、うまれた稚魚が海に下っても、三月ごろには早くも多摩川の水温は一八度まで上がってしまうため、アユたちはたいして大きくならないうちに川をのぼることになります。

すると、体力のない稚魚たちは途とちゅう中※せきの堰こを越えられず、力つきて死んでしまうことも多いし、なんとか上流までのぼっても体が小さいために外来魚に食べられてしまいます。

アユがたくさんくらす川の中流部では、本来は二〇センチ以上の成魚に育つはずが、多摩川においてはそれを下回る小型アユが目立ちます。

外来魚の広がり。アユの産卵の遅れ、小型化。

川の温暖化をふせぐため、「とにかく川を冷やそう」とわたし

はいつも言っています。もちろん川に氷を浮かべるわけにはいきませんが、それぞれの家庭でお湯の使い方を意識してもらいましょうかありません。

お風呂のお湯は一晚ひとばん冷ましてから捨てること。

シャワーを出しっぱなしにしないこと。

油のついた食器は新聞紙やヘラでぬぐってから洗えば、使うお湯の量は減らせます。

そして節水です。奥多摩の冷たい水は、羽村取水堰※はむらしゅすいせきでそのほとんどが飲み水として取られてしまいます。けれど、水を使う量が減れば、奥多摩の水をもっと下流に流すことができ、川全体を冷やすことができるはずで。

どれもちょっとしたことですが、でも、流域にすむ四六〇万人がほんのすこし意識すれば、それは大きな変化になるのではないのでしょうか。

(中略)

流れに足をひたしながら、わたしは思います。

どんなに川が汚れたときだって、この流れが止まることはなかった。

前に進み続ければ、きっと変わる。

みんなが「多摩川はわたしの川なんだ」と思えば、ひとりひとりがこうやっていのちを感じれば、きっと変わる。

(山崎充哲「タマゾン川 多摩川でいのちを考える」による)

〔注〕

反応槽——下水処理場の設備の一つで、微生物による汚

れの分解を行う場所。

懸念——気がかり。心配。

そ上——流れをさかのぼること。

ふ化——卵がかえること。

稚魚——卵からかえてまもない魚。

堰——水を取るため、また水深や流量の調節のため、

川の途中に作られた、流れをせき止めるもの。

羽村取水堰——多摩川の河口から上流約五十四キロメートル

に位置する堰。

〔問題1〕 「文章」のいのちを感じればとは、どのようなことか、

十字以上十五字以内で説明しなさい。

〔問題2〕 「詩」と「文章」をふまえて考えたとき、「詩」のゴ

ミ運搬車と「文章」の下水処理場との共通点は何か、

二十五字以上三十字以内で答えなさい。

〔問題3〕

「詩」と「文章」を読んで、人間が不快の物にならないために、あなたは何をすべきだと考えますか。本文に書かれていること以外で、具体的な例を挙げて三百六十字以上四百字以内で書きなさい。

〈きまり〉

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 段落を設けず、一まずめから書きなさい。
- 「や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます。
- 「。」が続く場合には、同じますめに書きます。この場合、「。」で一字と数えます。

